

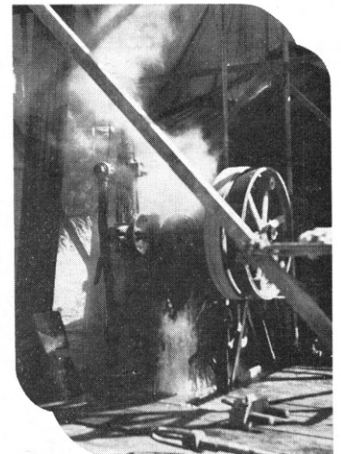
になった時に噴気するものである。蒸気圧の測定に際しては、ケーシングパイプの外側に沿つて蒸気が漏洩し測定が不能のため、掘進作業終了後にケーシングおよびドライブパイプの口許を完全にセメントしてから、完全密閉して圧力を測定した。

この時の圧力計は 2.3 kg-cm^2 を示し、孔底の蒸気温度は 125°C 、この蒸気の飽和圧は 2.3666 kg-cm^2 であるから、測定と飽和圧が大体一致している。

最近各地 地熱発電が注目された折柄、この方面の試錐も大いに研究され、実用価値はますます高められていくものと思う。



鹿兒島県始良郡霧島村
湯之野 試錐現場



噴気沈圧のため冷却水注入の状況
(孔内から継続的に水柱を吹き上げている)

霧島と昭和神山の物理探査

九州の霧島地熱地帯においては主として比抵抗法による電気探査を行つたが、その結果この地帯の地質構造を明らかにし、また地熱に伴う変質帯と原岩石とは著しく電気比抵抗を異にするので、変質帯の分布を容易に推定することができた。

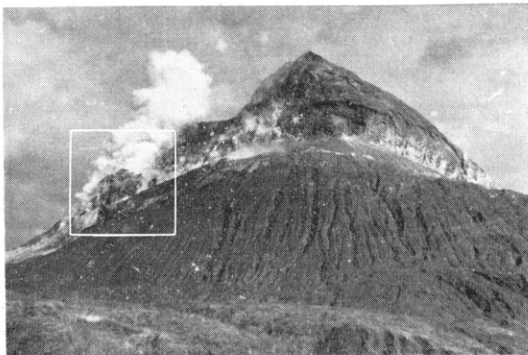
勿論この変質帯が現在の地熱分布と必ずしも一致するとは限らないが、地熱の存在する周辺にはこのような岩石の存在が推定できるので、地温分布や地質構造などとあわせて考えるとき、地熱に対する一つの有力なる手掛りとなるから、比抵抗法は地熱調査の有力なる探査法と

考えられる。

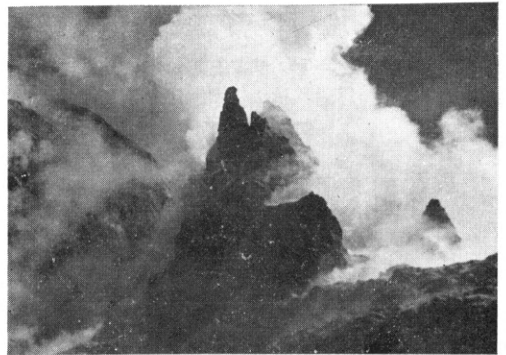
また浅所に分布する変質帯の探査には、磁気探査も有効であることが認められている。

北海道の昭和神山は現在活動中で、地表下は数千度に達する高熱状態のドームが存在する非常に珍しい火山であつて、このドームに伴つて地熱地帯が形成されている。

この地域においては重力・磁気・電気・地震・測温・放射能・化学等の各種の探査が行われ、岩漿の存在とか、地熱に伴う岩石の変化などの影響についての研究を行つ



昭和神山



昭和神山 (左の白煙の部分)